



若手職員 座談会

大阪市水道局で働く職員3名が、
入庁した理由や水道局の魅力、
これからのキャリアについて語ります。

※所属はインタビュー時点のものです。

PROFILE



S・H

総務部 職員課 人事管理担当

[2017年 事務行政(22-25) 採用]



M・M

工務部 工務課 施設設計担当

[2018年 大学卒程度技術（都市建設）採用]



K・H

工務部 施設課 企画連絡調整担当

[2016年 大学卒程度技術（機械）採用]

私が大阪市水道局に入庁した理由

S・H： 前職では地方の金融機関で投資信託や保険の販売を行っていましたが、長く務める仕事として公務員の道を選びました。私は、和歌山県の出身で大阪府内には住んだことがなかったんですが、関西地域の中でも規模が大きい大阪市なら幅広い業務を経験することが可能だと思いました。実は、配属希望は経済戦略局の観光関係だったので、水道局の仕事についてはほとんど知らない状態だったんです。

M・M： 私は、学生時代に衛生土木を専攻していて水道事業に携わりたいと思っていました。水道事業者の中でも大阪市水道局は規模が大きく、様々な業務に携わることが出来ると思いました。調べてみると大阪市水道局は水道事業に問題を抱えている途上国への技術支援も行っていることが分かり、「世界にも貢献することが出来るんだ」と思い、入庁を決意しました。

K・H： 私は、大学卒業後に社会を支えるインフラ関係の仕事に携わりたいと思っていました。インフラにおいても、生活になくてはならないのは水道であり、その技術者として大都市で働くことができる大阪市水道局は魅力的でした。また、大阪市は自治体の中でも技術職の採用数が多く、技術職の仲間がたくさん作れると思って、入庁を決意しました。



大阪市水道局のやりがい

S・H： 初めの配属先は水道局の経理課だったんですが、当時は経理の知識がほとんどなくて、分からないことだらけのところからスタートしました。それから、先輩たちから丁寧に教えてもらって、資料にまとめられた数字の意味が分かってきて、だんだん達成感が得られるようになりました。そしてそれが仕事に対する楽しさに繋がっていきました。他には、チームで連携をとってひとつの業務をやり切ったときにやりがいを感じますね。

M・M： 最近は大規模な地震が発生することが増えていますが、水道局には災害時にも安心・安全な水を供給する使命があります。私の仕事は、水道施設を耐震化工事するための設計という水道局の使命に直結するものなので責任も大きいですが、同時にやりがいのある仕事だと感じています。入庁して間もないにも関わらず、大規模な工事を任せてもらえて貴重な経験と成長の機会が得られています。

K・H： 私は設備の工事を任されていて、そのなかでも印象に残っているのは浄水場内で使うポンプの仕様検討から施工完了まで一連の業務に携わったことです。メーカーの工場で自分が発注したポンプの試験に立ちあったり、そのポンプの設置工事で工事監督をしたりしましたが、完成後の見える形になるまでやり遂げたときは達成感がありました。工事業者の方から「工事がやりやすかったよ」と言われたときはすごく嬉しかったですね。



大阪市水道局の魅力

S・H： 個人に課せられたノルマがなく休日が取りやすいので働きやすい職場だと感じています。もちろん期日がある中で他部署と連携を取りながら仕上げていく大変な業務もあるのですが、そのときには全員で協力しながら目標達成のために動いていく楽しさがあります。1時間単位で年次有給休暇が取得できるのも民間勤務のときにはなかった制度なのでありがたいと感じています。

M・M： 確かに1時間単位で年次有給休暇が取得できるのはいいところですね。私も休日を利用して旅行に出かけるなどしてプライベートを充実させることができます。一方で、職場では学びの場が多く設けられていると感じます。昨年度は水道局独自で実施されている令和アカデミー講座に参加して、浄水処理を詳しく学ぶことができ楽しかったですね。また他の講座にも参加してみたいです。

K・H： 私は、蛇口から水が出ているのを見ると、自分の仕事が市民のためになっているということを実感できて誇りを持てます。これはやりがいのところにもつながっているのですが、水は生活のために全員が必要とするものなので、その供給を担うことができる仕事に私は魅力を感じています。



これからめざすキャリア

S・H： 今後は水道局の内部だけではなく、大阪市の他の部局や区役所に異動する可能性があります。何でも挑戦してみたいです。私は、事務職なのでどの部署でも活躍の場があると考えています。将来的に家庭を持って出産をしたとしても、復職して仕事と家庭を両立させていきたいです。

M・M： 技術職の中でも土木は他の部局も含めて比較的多くの職場があります。これからは他の職場でも経験を積んで、いろいろな角度から物事を捉えられる職員になりたいと思っています。そのために、どのような仕事にも日々学ぶ姿勢で取り組んでいきたいです。

K・H： 私は、万博に向けた施設整備の方針を決めるための会議に出席しました。そこで色々な職種の職員から出る意見を聞いてみてわかったことは、技術的な観点で総合的な判断を行うためには機械だけの知識では足りないということです。これからは機械以外の知識も広げていって、他の職種との潤滑剤になれるような職員に成長していきたいです。